

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年8月12日 (2010.8.12)

【公表番号】特表2009-544690(P2009-544690A)

【公表日】平成21年12月17日 (2009.12.17)

【年通号数】公開・登録公報2009-050

【出願番号】特願2009-521410(P2009-521410)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/08 (2006.01)

A 6 1 P 11/06 (2006.01)

A 6 1 P 37/02 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 31/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 37/02 Z N A

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 P 37/08

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 37/02

A 6 1 P 29/00 1 0 1

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 1/04

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 31/00

C 0 7 K 14/47

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月24日 (2010.6.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

有効成分として C C L 2 を含み、さらに医薬的に許容され得るキャリアを含む、医薬組成物。

【請求項 2】

炎症を処置するために特定された医薬の製造のための C C L 2 の使用。

【請求項 3】

C C L 2 を含む単位投薬形態。

【請求項 4】

1 n g ~ 2 0 0 μ g の C C L 2 を含む、請求項 3 に記載の単位投薬形態。

【請求項 5】

経口単位投薬形態である、請求項 3 に記載の単位投薬形態。

【請求項 6】

注入可能なまたは吸入される単位投薬形態である、請求項 3 に記載の単位投薬形態。

【請求項 7】

細胞遊走を生体外で調節する方法であって、細胞遊走を阻害するように選択された量の C C L 2 を含む培地と細胞を接触させ、それによって細胞遊走を調節することを含む方法。

【請求項 8】

炎症はアレルギーと関連する、請求項 2 に記載の使用。

【請求項 9】

前記アレルギーは喘息である、請求項 8 に記載の使用。

【請求項 10】

炎症は自己免疫疾患と関連する、請求項 2 に記載の使用。

【請求項 11】

炎症は、癌、自己免疫、過敏症、多発性硬化症、糖尿病、感染、大腸炎、慢性関節リウマチ、移植関連の炎症およびアレルギーからなる群から選択される病状と関連する、請求項 2 に記載の使用。

【請求項 12】

前記 C C L 2 は、N P 0 0 2 9 7 3 に述べられたアミノ酸配列を含む、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 13】

経口送達または直腸送達のために配合される、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 14】

1 n g ~ 1 0 0 μ g の C C L 2 を含む、請求項 3 に記載の単位投薬形態。

【請求項 15】

1 n g ~ 1 μ g の C C L 2 を含む、請求項 3 に記載の単位投薬形態。